

## 学校評価について

「学校評価」は、幼児教育の質の保証とその向上の手段として行うもので、そのうち「自己評価」は文科省によって義務化されています。井草幼稚園は義務化された2007年以来、毎年、2学期の終わりに職員によって「自己評価」を行ってきましたが、令和4年度分より、「学校関係者評価」（当園の場合は評議員による）を加え、公表いたします。

手順は、職員一人一人がチェック表をもとに個人評価をしたものに基づいて、園長以下、一同で重点目標や計画に照らし合わせながら、その取り組みや達成状況について話し合い、園の自己評価を行います。次に、評議員会の協力を得て、自己評価の結果等について評価し、付け加えるべき検討課題を協議し、その内容を取りまとめ、報告書（下記掲載の通り）を作成するものです。

\*\*\*\*\*

## 令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月10日

(学) 松峯学園 井草幼稚園

### 1. 本園の教育目標

\* 幼児ひとりひとりの性格を的確に把握し、＜明るく 正しく 仲よく＞を信条に、家庭的な雰囲気の中で心と身体の調和のある発達を期する。

\* 幼児の身体、心情、意欲、態度の発達に関わる「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の領域を、自由遊び・一斉活動・生活・四季折々の行事に織り込んで、たのしい保育を行なう。

\* 幼稚園での集団生活を通して、はじめある基本的な生活習慣・態度と道徳、社会生活の規則を習得する。

\* 童話の語りや読み聞かせ、童謡など、世代や国境を超えて大切にしたい児童の文化を継承してゆくことも幼稚園の重大な使命と考え、教育に当たる。

### 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

\* 園庭の植物、虫、野菜・果物などの自然を保育者自身が観察し、理解することで、既成の教材にとられない、予想外の豊かな保育を展開する。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園庭の植物など自然の自然の変化を理解し、環境構成の生かす	B	月・季節ごとの行事で、その意味を話すことを心掛けた。
2	個々の幼児をよく観察すると同時に周囲との関係にも目を配る	C	他児を言葉や行動で傷つける園児を注意するとき、他の幼児にも問いかけて一緒に考えるようにした。
3	クラスに関係なく、その場にいる教員が園児の行動や問い掛けに対し適切な対応を取るようになる。	B	満3歳児クラスができてから特に、クラス関係なく小さな園児を通して、他の学年の園児同士の交流ができ、そのことが保育者にとっても良い影響を及ぼした。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	野菜・果物の栽培を通し、収穫物をこまめに園児に食べさせることで、作物への興味や、食わず嫌いの克服にも役立った。また自然を通して、園児同士の交流も深まった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	児童文化の歴史再発見	過去から蓄積された童話集、紙芝居、歌を再度調べ、「発掘」する。また創立当時の「口演童話」の手法を再び活性化させる。
2	幼児理解	一斉活動にすぐに溶け込めない、または全く興味を示さない幼児への働きかけと同時に、一人行動の意味をよく理解する。
3	自然観察	園庭の自然に限っても、虫の生態や植物の生育には不思議な現象ことが多いことを保育者自身が学んでいく。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

過去の卒業生、保護者の縁を生かして、昔の幼稚園時代の体験を通して得たもの、今は忘れられている教材（歌、道具、物語など）、過去の先生方からの忘れられないことば、祖父母との会話など、さまざまな機会に「取材」し生かしていくとよい。他園にないこの幼稚園ならではの良さを発揮してほしい。